

# 個人別発明工夫指導指針

淡路少年少女発明クラブ 作成:h 23.5.16 改版1 堀 口

ステージ	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X
教室実施日	5・7	5・21	6・11	6・25	7・9	7・16	7・23	8・13	9・10	9・24
発送	殆んど、土曜日に実施で計画 14:00～16:30									
カリキュラム	①発明とは何か②発明品の説明③アイデアを出すには④道具の種類と使い方⑤KYTについて									
	①不便を感じたこと②楽をする方法③図面に書いてみよう④名称をつけよう									
	①アイデアのテーマを絞る②図面を完成する③必要な部品を考える									
	①試しに作ってみよう②出品表の配布									
	進捗の管理を行う目安です ①作品を完成しよう②完成品の改良をしよう									
	発明品によっては、前倒しになることがあります。 ①改良をさらに進めよう									
	①作品の機能確かめよう									
	①機能を高めよう									
	①出品表の作成									
	発送									
指導内容	①個人別担当指導員の固定 ②材料手配、図面完成度確認(初回) ①試作品製作補助指導、図面完成度確認(第2回) ②発明のポイント確認(2点以上を明文化、従来品との作用効果の差を明確化) ③改善の提案(作用効果を高める設計変更) ①試作品製作補助指導、図面完成度確認(第3回) ②発明のポイント確認(従来品との作用効果の差を明確化) ③改善の提案(作用効果を高める設計変更) ①出品表の基礎項目調査(発明内容以外の項目) ②発明品の製作補助指導 ①改善の提案 ②発明品の製作補助指導 ①発明品の製作補助指導 ①完成品の確認 ②出品表書き方指導									
指導上の注意点	ポイント 1 シンプルいずベストの考え方でスタート 2 不便、楽でなかった従来品を固定(従来技術を明確にしておくこと:仮定でも可) 3 巨大なもの(一辺50cm以上)は避けた方がベター 4 確実に動作し(常に再現性が保たれる)その効果を提供できていること 5 テーマ変更は、ステージ3までに止めておくこと(複数のアイデアが既にだされていた場合) 6 担当指導員は、クラブ員の発明品完成品の責任を負うこと(放棄、中断の禁止)									

匕)